

平成15年度スジアオノリ優良品種作出技術開発

牧野賢治・團 昭紀

吉野川産スジアオノリから室内試験により、高水温耐性株を2株選別することができた。この選別された株の実用化を検討するために、野外養殖試験を実施した。

材料と方法

2003年10月8日にそれぞれ特性が違うスジアオノリA, B, C株(図1, 2, 3参照)を母藻細断により成熟促進処理をおこない、11日にノリ養殖網に人工採苗をおこなった。14日までタンク内で育苗をおこない、15日に吉野川養殖漁場で養殖試験を開始した。養殖試験期間は10月15日から11月13日までおこなった。10月22, 27日, 11月6日, 養殖試験終了時に、網糸ごとアオノリを採取し、1cm当たりの上位20本の平均藻体長を求めた。なお、養殖期間中はアレック電子(株)製メモリー水温塩分計(ACT-HR)で水温塩分を計測した。

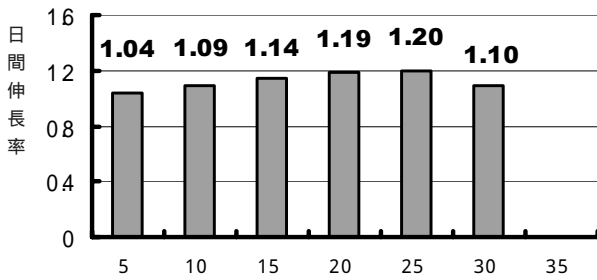


図1 A株の水温特性

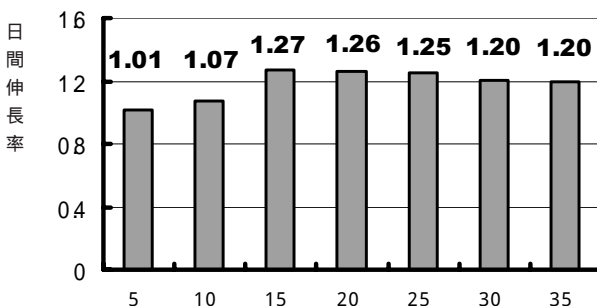


図2 B株の水温特性

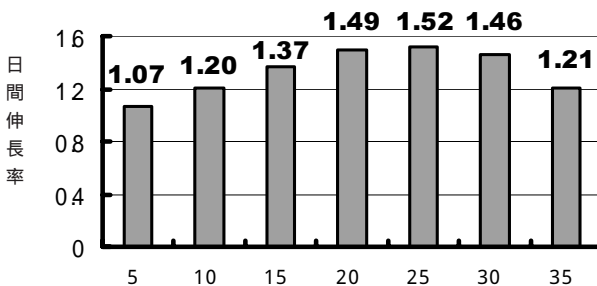


図3 C株の水温特性

結果及び考察

漁場水温は、養殖試験開始時の10月15日頃は21 であった。10月26日には20 以下となり、その後、試験終了時まで19から20 で推移した(図4)。塩分は養殖期間中16.9 から28.6psu付近で推移した(図5)。試験結果は図6, 7, 8に示した。試験開始1週間後まではB, C株は順調に生長し、A株には顕著な生長がなかった。しかし、日平均水温が20 以下になり始めた10月26日にはB, C株の藻体の先が孢子放出のため、先が白くなり、それ以降は生長が鈍くなり、最高でも平均9cmの生長であった。A株については、B, C株が生長している時は、あまり生長がなく、B, C株の生長が止まると、A株は生長し始め、最終的には平均の長さが約40cmになった。例年、スジアオノリ漁期の口開けとなる10月中旬は、スジアオノリの生長に影響を与える水温23~25 である。しかし、今年度は、スジアオノリの最適水温である水温20 以下になる時期が早かったため、選別された高水温耐性株にとって生長に影響を与える環境であったと推測される。

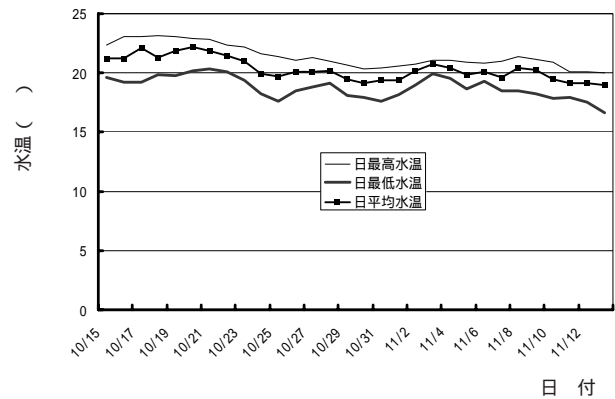


図4 試験養殖漁場での水温の推移

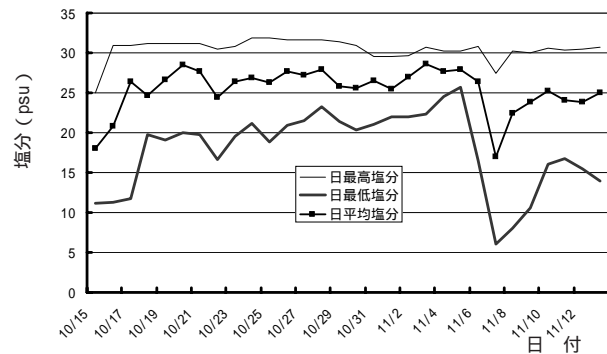


図5 試験養殖漁場での塩分の推移

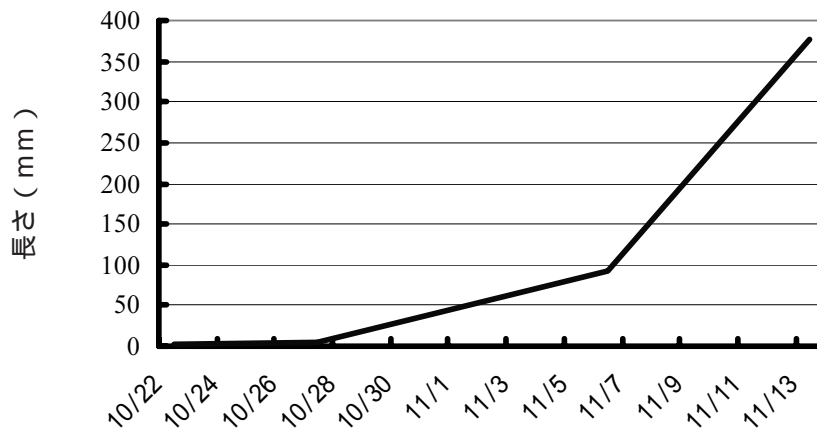


図6 養殖期間中におけるA株の生長推移

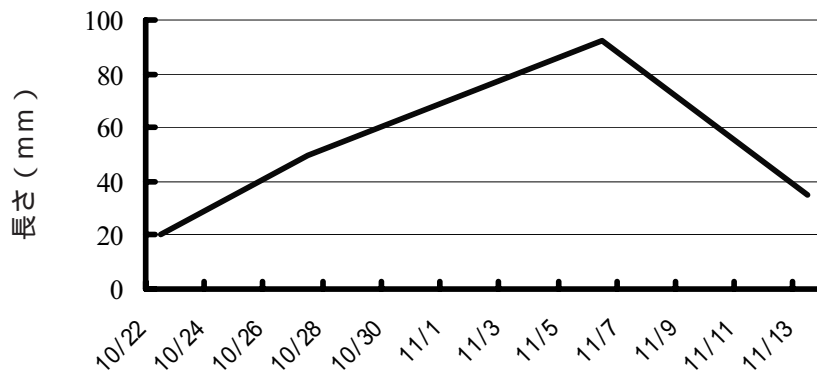


図7 養殖期間中におけるB株の生長推移

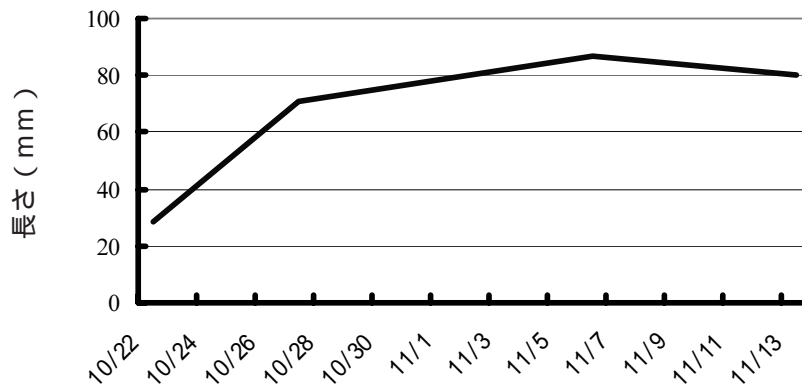


図8 養殖期間中におけるC株の生長推移